

[第5学年及び第6学年]目標(「学びに向かう力, 人間性等」の単元目標)
(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに, 我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い, 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め, 自分の思いや考えを広げることができるようにする。
(3) 言葉がもつよさを認識するとともに, 進んで読書をし, 国語の大切さを自覚して, 思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
「学習内容」…△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4月	2 (話す聞く2)	質問に答えるかたちで自分のことを話そう 自分との対話 教科書:P8 ◇自分のことを客観的に捉えて話す。	話聞	1	〈見通しをもとう〉 1. 学習活動の見通しをもち、教師による学習活動のモデルを見て、活動内容を理解する。 ＊教師があらかじめ用意しておき、児童の学習モデルとなるよう、質問に答えるかたちで自分のことを話す。質問の内容、そこから考えたこと、具体的なエピソードを踏まえて話すといよ。 2. 友達にきいてみたい質問をカードに書く。 ＊質問の具体的なイメージをもたせる。 ＊質問のカードは、人数より多めに用意する。 3. カードを引いて、質問を決める。 ＊話しにくい内容のカードがあたった場合は、取り替えてもよいことを確認しておく。 4. 質問にどう答えるか考え、ワークシートやノートに書く。	【知識・技能】 ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。((1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) 【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。(A(2)ア) 【態度】 ・積極的に目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、今までの学習を生かして質問について考えようとしている。
					2	5. グループで発表する。 6. 感想を伝え合う。 ＊友達の話を聞いて、印象に残ったことや共感したことなどについて交流させる。 〈ふり返ろう〉 7. 学習のまとめを書く。 ＊この学習をとおして、自分ができるようになったことや、これからに生かしたいことをまとめさせる。	
1学期	4月	1	楽しく声に出して読もう 風景 純銀もざいく 教科書:P10 □繰り返しの響きや意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 ☆学習用語: 音読／詩	読む	3	1. 『風景 純銀もざいく』を音読する。 ＊何度も音読をすることによって、繰り返しの効果に気づかせる。理屈ではなく身体で詩の表現の効果についてつかませたい。 ＊一連・二連・三連で、見えたり、聞こえたりしたことを考えさせる。 ＊児童が理解しにくい言葉「むぎぶえ」「ひばり」「や(病)める」という語の意味については、写真などの資料を見せて補足し、説明を加えるとよい。 2. 音読して気づいたことや気になったことをグループで話し合い、詩の表す世界について、意見交流する。 ＊遠方から聞こえる「かすかなるむぎぶえ」、上空から聞こえる「ひばりのおしゃべり」、そのさらに上に見える「やめるはひるのつき」という各連の八行めについて、どのような違いがあるのかに着目するように助言する。 3. 詩の表す世界を思い浮かべながら音読する。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ケ) ◎文章を音読したり朗読したりしている。((1)ケ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで繰り返しの効果や言葉の意味に気づき、学習課題にそって音読しようとしている。
1学期	4月	2	一 情景描写に着目して感想を話し合おう あの坂をのぼれば 教科書:P14 □情景描写に着目して登場人物の心情の変化を想像し、物語の読みを深める。 ★ここが大事: 物語の読みを深める ☆学習用語: 登場人物／情景／作者	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 〈たしかめよう〉 2. 登場人物の心情がどのように変化したのかを考える。 ＊登場人物と似た経験がある児童がいる場合には、その時の経験を話してもらい、具体的に想像できるようにしてもよい。 〈くわしくよう〉 3. 繰り返される「――あの坂をのぼれば、海が見える。」に表れている心情について、情景描写などに着目しながら考え、話し合う。 ＊「――あの坂をのぼれば、海が見える。」の繰り返しを確認し、登場人物の心情の変化を想像させる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に對する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ○「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで情景描写に着目して読み、学習の見通しをもって感想を話し合おうとしている。
					2	〈まとめよう〉 4. 素敵だと思う情景描写について、感想をまとめる。 ＊「ここが大事」にもあるように、心情は、直接的に描写される場合もあるが、登場人物どうしの関わりや行動、会話、情景などを通して表現される場合もあることを確認する。 ＊情景描写とは、景色や場面の様子が詳しく書かれている表現であることを確認する。 〈つたえあおう〉 5. まとめたものを伝え合う。 ＊考えを広げるために、互いの感想の違いに着目したり、よいところを認め合ったりするように声をかける。 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。	

1学期	4月	3 (書く3)	図に表して整理しよう 考えを図や表に 教科書:P22 ■目的や意図に応じて、考えや意見を図に書き出して、関係づけたり比較したりすることができる。 ☆学習用語:課題／情報／インターネット／比べる／共通点／相違点	書く	1	1. 教科書を読んで、いろいろな図や表があることを知り、学習の見通しをもつ。 * 図や表が何を表しているかだけではなく、どのように作られているのかを考えながら教科書を読ませる。 * 図や表を使うことで、発想を広げたり深めたりすることができることを確認する。 * 図や表は、何かを選択するときに比較・検討内容が明確になることを確認する。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・粘り強く伝えたいことを明確にしようとし、学習の見通しをもって考えや意見を図に書いてまとめようとしている。
					2	2. 目的や意図に応じて図や表を使い、自分の考えを整理したり、まとめたりする。 * 目的や意図を明確にさせて活動を行う。	
					3	3. どのように考えをまとめたか友達と交流する。 * 自分がどのようなことを考えて図や表を用いたのかなど、結果だけではなく途中の思考も交流させたい。 4. 学習を振り返る。 * 児童が図や表の特長をどのように理解して用いたのかということや、使った図を選んだ理由、項目の内容などにした工夫を振り返らせたい。	
1学期	5月	4 (書く1)	言葉の文化① 春はあけぼの 教科書:P24 △『枕草子』の文章にふれ、リズムや響きを味わいながら音読し、『枕草子』ふうの文章を書く。	文化	1・2	1. P24を読み、清少納言と『枕草子』について知り、教材の概略をつかむ。 * 文語の散文との初めての出会いである。まずは、教材の概略をつかませる。 2. 『枕草子』を繰り返し音読する。 * なめらかに読めるように、何度も繰り返し読むようにさせる。暗唱に取り組ませてもよい。 3. 各季節の情景を捉える。 * 大意や写真を参考に、情景をイメージさせる。四季について、自分たちの経験や感じていることを想起させると、よりイメージが膨らんでくだろう。	【知識・技能】 ◎親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)力) ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)力) 【言語活動例】 ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B(2)ウ)
					3・4	4. 「私の枕草子」を書く。 * 自分の経験をもとにして、季節感を強く感じた場面を、簡潔な表現で文章化させる。 5. 友達が書いた「私の枕草子」を読み、交流する。 6. 学習の振り返りを行う。	【態度】 ・すすんで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって『枕草子』ふうの文章を書くようとしている。
1学期	5月	2	言葉の広場① 主語と述語の対応をかくにんしよう 教科書:P30 △主語と述語の対応を確認して、文のねじれに気づき、正しく直す。 ☆学習用語:主語／述語／伝える／漢字	言語	1	1. 主語・述語について復習する。 * 主語・述語とは何かが理解されていなければ、主述の対応・不対応の識別、修正方法の理解は図れない。簡単な文を提示して、主語と述語を特定しながら、主語・述語とは何かを確認するとよい。 2. 主語と述語が対応しない文とはどのようなものか知る。 * P30を読んで、例文の主語と述語が対応していないことを確認させる。 * 例文の主語と述語を指摘させ、主語と述語が対応していないことを確認させてもよい。 3. 主語と述語が対応しない文を正しく直す方法を理解する。 * ねじれ文の直し方は必ずしも一つに限られるものではないことに気づかせる。	【知識・技能】 ◎文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)力) 【態度】 ・積極的に主語と述語の対応について理解し、今までの学習を生かして、文のねじれに気づき、正しく直そうとしている。
					2	4. 主語と述語が対応しない文を修正することで、主語と述語の対応について理解を深める。 * 主語(のまとまり)はそのまま、述語(のまとまり)を直す形で修正させる。 * 正しく直した文を書かせたら、児童どうして確認させてもよい。 5. 主語と述語の対応していない文を修正する。 * ワークシートに取り組ませて主語と述語の対応しない文を修正させてもよい。また、児童作文を例にして主語と述語の対応しない文を修正させてもよい。 6. 学習を振り返る。 * 作文を書くときや見直すときに、主語と述語の対応をよく確認しているか振り返りをさせる。	
1学期	5月	1	漢字の広場① 三字以上の熟語の構成 教科書:P32 △三字以上の熟語の構成について理解を深め、由来に関心をもつ。 ☆学習用語:構成／熟語／話し合う	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 五年生で学んだ二字の熟語の構成法を再確認し、型に分けて、整理させておく。 2. 「少人数」「保健室」「身体測定」という熟語の意味を考える。 3. P32の説明にそって、三字と四字の熟語の構成について知る。 4. 辞典を利用して三字と四字の熟語を集め、その構成を考えてノートにまとめ、発表し合う。 * 国語辞典や漢字辞典で、漢字や熟語を調べ、推測した意味と比較させるとよい。 5. 切れ目に「／」を入れて、三字以上の熟語の構成について話し合う。 6. 三字の熟語における結びつき方を考える。 7. 略語と、略す前の熟語を比べる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) 【態度】 ・積極的に熟語の構成に関心を持ち、学習の見通しをもって調べようとしている。

1学期	5月	1 (書く1)	五年生で学んだ漢字① 教科書:P34 △絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。	漢字	2	8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 *教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を学級全体に示しやすくなる。 *描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 9. 絵の中の言葉を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 *条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 10. 作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 11. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
1学期	5月	1	二 文章と資料をあわせて読み、筆者の考えをとらえよう アイスは暑いほどおいしい?—グラフの読み取り 教科書:P36 □グラフについての説明を生かしてグラフを読み取り、全体の傾向や変化について説明する。 ☆学習用語:グラフ／傾向／最大値／最小値／変化	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元名やリード文を読んで、学習の見通しをもつ。 2. グラフについての説明を読んで、グラフの構成要素を理解する。 3. 「気温とアイス・シャーベット支出額」のグラフを読み取り、全体の傾向や一年間の変化について話し合う。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) 【言語活動例】 ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・すすんでグラフの意味や構成要素を理解しようとし、学習課題にそってどのような傾向や変化が読み取れるかを考えようとしている。
1学期	5月	6 (書く2)	二 文章と資料をあわせて読み、筆者の考えをとらえよう 雪は新しいエネルギー—未来へつなぐエネルギー社会 教科書:P38 □雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係について、文章と資料を合わせながら読み、筆者の説明の仕方について考えをまとめる。 ★ここが大事:筆者の説明の工夫をとらえる ☆学習用語:課題／事実／事例／文章／結果／分析	読む	1	〈たしかめよう〉 4. 本文を読んで、問いかけと筆者の主張について考える。 (1)筆者の問いかけについて、その理由を話し合う。 (2)筆者の問いかけに対する考えを探し、伝え合う。 *教科書P48の学習の手引きを参照することをおさえる。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ○「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ◎「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ)
					2	〈くわしくよう〉 5. 筆者が問いかけに対する考えを述べるために、どのような事例を示しているのか、文章と資料をあわせて読みながら考える。 6. 筆者が氷室の実験結果について、文章と資料をあわせて書いた理由を話し合う。 *筆者がグラフをどのような意図で示しているのかを考えることをおさえる。	【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C(2)ア)
					3・4	〈まとめよう〉 7. 筆者の説明の仕方の工夫について考え、ノートにまとめる。 *説明の仕方は「表現方法」と「具体例の順序」の二つの視点から考えることをおさえる。 *筆者が雪利用についての課題を切り口に述べている点を児童の気づきからおさえる。	【態度】 ・筆者の主張を取りあげた事例の関係について、文章と資料を合わせながら読み、筆者の説明の仕方について考えをまとめようとしている。
					5・6	〈つたえあおう〉 8. 筆者の説明の仕方について、考えを紹介し、感想を伝え合う。 *友達と伝え合うことを通じて自分の見方が広がった点について加筆・修正することをおさえる。 〈ふり返ろう〉 9. 文章と資料を結びつけて読むときや、自分の考えを人に伝えるときに、どのようなことに気をつけるとよいか振り返る。	
1学期	6月	6 (話す聞く6)	三 立場を明確にして主張しよう パネルディスカッション—地域の防災 教科書:P52 ◇意見の違いを大事にしながら話し合い、考えを深める。 ★ここが大事:立場を決めて話し合う ☆学習用語:立場／討論／パネラー／パネリスト／パネルディスカッション／フロア／主張／要点／共通点／相違点	話聞	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元名やリード文を読み、立場を明確にして話し合うことについて考え、学習の見通しをもつ。 (1)教科書を読み、パネルディスカッションの意図と進め方を知る。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)
					2	〈決めよう・集めよう〉 2. 立場を決め、詳しく調べる。 (1)自分たちが話し合うテーマ(論題)を設定する。 *事前に話し合いたいテーマについてアンケートをとり、いくつかテーマの候補を決めておいてもよい。 (2)立場を確認し、調べる。 *テーマに対して調べる観点と立場、グループのメンバーを決めさせる。	【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) 【言語活動例】 ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。(A(2)ウ)
					3	〈組み立てよう〉 3. 集めた情報をもとに主張を組み立てる。 (1)自分たちが設定したテーマにそって、パネルディスカッションの準備を行う。 *グループで情報を集めたり、整理したりして、自分たちの主張をまとめさせる。	【態度】 ・意見の違いを大事にしながら粘り強く話し合い、学習の見通しをもって考えを深めようとしている。
					4・5	〈話そう・聞こう〉 4. パネルディスカッションを行う。 *司会者とパネリストを決め、フロアの役割を確認する。 *パネルディスカッションは二回行う。	
					6	〈伝え合おう〉 5. 感想を伝え合う。 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。	

1学期	6月	4 (書く4)	三 立場を明確にして主張しよう みんなで作ろうパンフレット 教科書:P58 ■相手や目的に応じて内容や構成を考え、パンフレットを作る。 ★ここが大事:パンフレットで知らせる ☆学習用語:パンフレット／パネルディスカッション／立場／構成／アンケート	書く	1 〈見通しをもとう〉 1. 教科書を読み、どのようにパンフレットを作るのかイメージし、学習の見通しをもつ。 * 読んでもらう相手や目的を明確にする。その際、相手が大人なのか子どもなのか、どのようなことを中心に伝えるのかなど、具体的に考えさせる。 〈決めよう・集めよう〉 2. 違う立場の人どうしてグループになり、知らせたい内容を話し合う。 * パネルディスカッションの学習を踏まえ、その中で感じた個々の課題を振り返らせる。パネルディスカッション時のグループとは別のグループメンバーと話し合うことで、さまざまな立場からの課題や意見を交流できる。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(I2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ) ○「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)エ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア)
					2 〈組み立てよう〉 3. パンフレットを書く分担を決め、構成を考える。 * 構成については、P59下段の構成例を参考にするほか、地域で配布されているパンフレットや広報誌など、身近にあるパンフレットを用意して、参考にさせてもよい。	【態度】 ・積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題にそってパンフレットを作ろうとしている。
					3 〈書こう〉 4. パンフレットを作る。 * 読み手にわかりやすくなるように工夫をさせる。 〈読み返そう〉 5. 文章を読み返す。 * 読み手に、よりわかりやすく伝えるにはどうしたらよいかという観点で推敲させる。	
					4 〈伝え合おう〉 6. パンフレットを読み合う。 * 学級内だけでなく、全校児童や地域のかたに読んでもらえるよう展示してもよい。読んでもらって、喜んでもらうことが、また書きたいという気持ちにつながる。 〈ふり返ろう〉 7. 知らせたいことや読む人のことを考えて、わかりやすいパンフレットを作るために、どんな工夫をしたか振り返る。	
1学期	6月	1 (書く1)	言葉の文化② 雨 教科書:P62 △「雨」を扱った言語表現を集め、日本語の豊かさに気づく。	文化	1 1. 教科書を見て「雨」に関わる言語表現を知り、その背景を考える。 * 「雨」が使われている言語表現の多様さに気づかせる。 2. さまざまな言語表現を辞典などで調べたり、これまで読んだ本の描写から思い出したりしながら「言葉ノート」を作る。 * どのような種類の辞典や参考書を見ればよいのかを考えさせる。 * これまで読んだ本で記憶に残っている雨の描写を、友達と交流して集め、確かめ合うようにさせる。雨を題材とした楽曲などを対象にしてもよい。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(I3)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア) 【言語活動例】 ・短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)イ) 【態度】 ・すすんで「雨」を扱った言語表現を集め、学習の見通しをもって「言葉ノート」を作ろうとしている。
1学期	6月	2	言葉の広場② 世代による言葉のちがいがい 教科書:P64 △世代による言葉遣いのちがいがいについて理解し、相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使うことができるようにする。 ☆学習用語:世代による言葉の違い	言語	1 1. 世代によって使用する言葉に違いがある場合があるということを知り、学習の見通しをもつ。 2. 言葉には、年上の世代の人たちには使われていたが、今はほとんど使われなくなったものがあるということを理解する。 * P64下段を読み、他にもこのような言葉がないかどうか探させる。 3. 言葉には、自分たちの世代にしか通用しないものがあるということを理解する。 * P65上段を読み、他にもこのような言葉がないかどうか探させる。 4. 言葉には、人が成長する過程で一時的に用いられるものがあるということを知る。 * P65下段を読み、幼児がよく使っている言葉にはどのようなものがあるか探させる。 * 世代による言葉の違いについて、家の人にきいてくるよう指示を出す。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(I3)ウ) 【言語活動例】 ・インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A2)イ) 【態度】 ・積極的に世代による言葉遣いの違いについて理解し、学習課題にそって相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使おうとしている。
					2 5. 家の人にかいた内容をグループでまとめる。 6. 世代によって使われる言葉の違いや、ふだん友達どうして話しているときに使ってしまうくだけた表現の言葉について、学級全体で話し合う。 7. 学習したことを振り返る。	

1学期	6月	1	漢字の広場② 複数の意味をもつ漢字 教科書:P66 △複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味に関心をもつ。 ☆学習用語:象形文字	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「象」という漢字の意味を考える。 3. P66を読み、「象」という漢字は、もとの意味と、派生した意味をあわせもっていることを知る。 4. 「布」「針」を使ったそれぞれの言葉が、どのような意味で使われているかを話し合う。 * 辞典でそれぞれの言葉と漢字の意味を確認する。 5. P67下段の設問に取り組み、傍線の漢字がそれぞれどのような意味で使われているかを考え、違いを話し合い、辞典で調べる。 * 漢字辞典を活用して調べる活動を取り入れ、漢字の意味と言葉の意味との関連に興味をもてるようにしたい。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ) 【態度】 ・積極的に漢字の意味を確かめ、学習の見通しをもって複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味を考えようとしている。
1学期	6月	1 (書く1)	五年生で学んだ漢字② 教科書:P68 △絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。	漢字	2	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 * 教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を学級全体に示しやすくなる。 7. 絵の中の言葉を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかのわかりやすくなる。 8. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 9. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
1学期	7月	7 (話す聞く2)	四 表現が読み手にあたえる効果について考えよう 川とノリオ 教科書:P70 □優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、優れた表現についての感想を話し合う。 ★ここが大事:すぐれた表現を読む ☆学習用語:擬人法／体言止め／比喩／情景／心情／朗読	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク) ◎文章を音読したり朗読したりしている。(1)ケ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、学習の見通しをもって優れた表現についての感想を話し合おうとしている。
			2		〈たしかめよう〉 2. いつ、どのようなできごとが起こったのか、川や川つぶちがどのような様子であったか、表に整理する。 * いつ、どのようなできごとが起こったのか表に整理すると、物語の全体を捉えやすくなることを確認する。		
			3		3. 印象に残った場面を紹介し合う。		
			4		〈くわしくよう〉 4. 「比喩」「色」「音や様子」「体言止め」「擬人法」「繰り返し」などの表現を探し、その効果について話し合う。 * 「ここが大事」を読み、すぐれた表現が、読み手の想像を広げ、物語の世界を豊かにしてくれることを確かめたい。		
			5		〈まとめよう〉 5. 表現の効果を考えながら、心に残った場面について、自分の考えたことが伝わるように朗読し、感想を交流する。 * 「音読が、文章の内容や表現をよく理解し伝えることに重点があるのに対して、朗読は、児童一人一人が思ったり考えたりしたことを、表現性を高めて伝えることに重点がある」(『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』より)ことに留意する。 * 同じ表現を選んでいても朗読の仕方はさまざまに表れる。自分の感じたことがどのようなことかを明確にしておくことが大切である。		
			6		〈つたえあおう〉 6. 心に残った表現について感想を話し合う。 * 教科書に例示されている三つの観点を参考にノートに書き、なぜそれが心に残ったのか、根拠を明確にさせる。 * お互いの考えの違いに着目したり、よいところを認め合ったりして、考えを広げさせる。 7. 題名について考える。		
			7		〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。		
1学期	7月	1	読書の広場① 地域の施設を活用しよう 教科書:P92 △身のまわりに情報を集めることのできる施設があることを知る。	読書	1	1. 地域の施設について調べ、情報収集のための活用方法を考える。 (1)施設の利用経験や教科書P92・93から、各施設の特徴を考える。 * 展示されている資料やどんな情報を得られるかを発表させる。 (2)地域にある施設について調べ、ワークシートにまとめる。 * 地域の施設のパンフレットやホームページのURLの一覧表などを用意しておく。 * 担当を決め、施設に関する情報、展示されている資料などを調べ、どんなことを調べるときに活用できるかを考えさせる。 (3)調べたことを発表し合う。 * 目的に応じて、施設を活用することで、詳しい情報が得られることに気づかせる。 * ワークシートは、ファイリングして施設の案内資料として活用する。 (4)学習のまとめをする。 * 今後、活用したい施設や施設を調べて考えたことを発表させ、施設活用への意欲を高める。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。(C(2)ウ) 【態度】 ・すすんで地域の施設について調べ、これまでの学習を生かして、情報収集のための活用方法を考えようとしている。

1学期	7月	1	読書の広場② ひろがる読書の世界 教科書:P94 △特別な一冊を紹介したり、伝記の人物から学んだことを漢字で表したりする活動をとおして、日常的に読書に親しむ。	読書	1	1. 読書生活を振り返り、「特別な一さつ」を紹介し合ったり、これからの読書生活を考えたりする。 (1)読書生活を振り返る。 * これまでに読んできた本を振り返り、「特別な一さつ」を選ばせる。 (2)「特別な一さつ」を紹介し合う。 * 事前に活動を知らせ、本を用意させておいてもよい。 * 紹介内容を考えさせる。本の内容だけでなく、本から受けた影響や本との思い出など、なぜ特別な本なのか、理由を考えさせる。 * 紹介を聞いたあとには、質問したり感想を伝えたりさせる。紹介された本を知るだけでなく、友達の本への思いや読書の魅力を知る機会にしたい。 * 友達の発表を聞いて、思ったことを発表させる。 (3)今後の読書生活について考える。 * 本との向き合い方、これからどんな本を読んでいきたいかを考えさせる。	【知識・技能】 ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。(3)オ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで読書に親しみ、今までの学習を生かして読書生活を振り返り、「特別な一さつ」を紹介し合ったり、これからの読書生活を考えたりしようとしている。
2学期	9月	2 (話す聞<2)	相手の思いを考えながら聞こう 聞かせて！「とっておき」の話 教科書:P96 ◇話し手の意図を考慮しながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめる。	話聞	1	<見通しをもとう> 1. 教材名やリード文から、本教材の目標や活動をつかむ。 * 相手の話を詳しく引き出し、自分の考えや経験と比べることを確認する。 2. 知らせたい「とっておき」を考える。 (1)教科書の例を参考にしながら、友達と共通点がありそうなできごとを学級で話し合う。 * 「家族」「一年生のお世話」「将来の夢」「好きなスポーツ」「夏休み」「初めての体験」などが項目の例として考えられる。 (2)できごとの項目から候補を三つ選び、それぞれ自分のエピソードを思い出す。	【知識・技能】 ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) 【言語活動例】 ・インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A(2)イ) 【態度】 ・積極的に話し手の意図を考慮し、今までの学習を生かして自分の意見と比べて考えをまとめようとしている。
					2	3. 「とっておき」について話す。 * 二人で組みになり、エピソードをあげながら順番に話をさせる。 4. 感想を伝え合う。 (1)友達のエピソードの概要と、それを聞いての自分の考えや経験を紹介する。 (2)紹介を聞き終えたら、感想を伝える。 * 自分の考えや経験との共通点や相違点を意識して、感想を伝えるようにする。 <ふり返ろう> 5. 学習の振り返りをする。	
2学期	9月	1	詩を読もう イナゴ 教科書:P98 □凝縮された言葉の美しさや豊かさを味わいながら、詩の世界を楽しむ。 ☆学習用語:連	読む	1	1. 『イナゴ』を音読して、第一連と第二連の「イナゴ」の様子をもとに、詩の世界を想像する。 * 第一連が、色彩豊かな秋のひとときであることを確認する。 * 第二連が、第一連の世界とは一転して、緊張しているイナゴのクローズアップであることを確認する。 2. 第一連と第二連で、「ぼく」の目に映るイナゴの姿にはどのような違いがあるか、その対比についてグループで話し合う。 * 視点の違いについて気づかせたい。 3. 第三連について考えたことを、全体で話し合う。 * 「強い生きもの」と、「よわい生きもの」の間の「イネのにおい」とは、何を表しているか、比喩表現や象徴表現の意味について考えさせる。この時に、一つの「正解」に追いつまないように、注意する。 * 「川のように流れるイネのにおい！」から、どのようなことを想像したか考えさせる。 4. 最後に音読をして、学習のまとめをする。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク) ○文章を音読したり朗読したりしている。(1)ケ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・積極的に言葉の広がりを楽しむ、学習課題にそって詩の世界を楽しもうとしている。
2学期	9月	1 (書く1)	言葉の文化③ 「知恵の言葉」を集めよう 教科書:P100 △昔から広く継承されてきた「知恵の言葉」を知ることによって、言語文化の奥深さに気がつくとともに、自らの体験をもとに新たな「知恵の言葉」を創作する。	文化	1	1. 暮らしの中に、ものの名前や物事の手順を唱え、言葉で覚える工夫があることを知り、教材文を読んで集めたり調べたりする意欲をもつ。 * 教科書の「知恵の言葉」を唱えさせ、いろいろな「知恵」があることに気づかせるようにする。 * 教師の知っている唱え言葉による暗記などの工夫を紹介し、家で教わったり自分で工夫したりした唱え言葉を思い出させる。 2. 自分が知っている「知恵の言葉」をグループ内で発表して、交流する。 * 「知恵の言葉」の唱えやすさが言葉のリズムなどにあることに気づかせる。 * インターネットや本などを使用して調べさせてもよい。 3. 自分で「知恵の言葉」を作り、紹介し合う。 * 書き終えたら、同じグループ内で紹介させる。 4. 学習の振り返りをする。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・すすんで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって自分の「知恵の言葉」を作ろうとしている。

2学期	9月	5 (書く5)	五 てんかいを工夫して物語を書こう あなたは作家 教科書:P102 ■写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作る。 ★ここが大事: 物語を作る ☆学習用語: 中心人物／視点／クライマックス／やま場／情景描写	書く	1 2	〈見通しをもとう〉 1. 写真から着想を得た物語を読み、学習の見通しをもつ。 * 物語を創作することを伝え、活動の具体的なイメージをもてるようにし、児童の意欲を高める。 〈決めよう・集めよう〉 2. 物語の設定を考える。 (1) 写真を選び、登場人物を考え、人物設定を考える。 * みんなが知っているアニメのキャラクターなどを用いて、人物設定の仕方を考えさせるとよい。 * 写真には写っていない人物を設定してもかまわない。 (2) 物語の大体を考える。 (3) 物語の展開される時や場所を考える。 3・4 〈組み立てよう〉 3. 物語を組み立てる。 * 一人で考えるのではなく、友達の意見を聞くことで、自分では考えつかなかったおもしろいアイデアが生まれることもある。積極的に交流させたい。 * 始めと終わりを先に考えさせ、その変容が起こるやま場を考えるようにすると構成しやすいことを確認する。 〈書こう〉 4. 物語を書く。 * 書き出しの工夫や表現の工夫についてP106・107を参考にさせる。 * 既習の文学作品を取り上げて、表現の工夫によって、作品にどんな効果が表れているかを確認させる。 * やま場を詳しく書くように指導する。会話文や心内語を入れると場面がいきいきする。 〈読み返そう〉 5. 物語を読み返す。	【知識・技能】 ◎文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【言語活動例】 ・短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)イ) 【態度】 ・積極的に物語のつくりの特徴について理解し、学習課題にそって写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。
2学期	9月	3 (話す聞く1)	言葉の広場③ なぜ、わかり合えなかったのかな？ 教科書:P108 △伝え方次第で相手に自分の考えが伝わらないことを理解し、自分の考えを適切に伝える。	言語	1 2 3	1. ふだんの会話やSNS上のやりとりの中で、自分の伝えなかったことが、相手にうまく伝わらなかった経験があるか思い返し、学習の見通しをもつ。 2. 西川さんと田村さんのやりとりについて話し合う。 * どのようにすれば誤解なくやりとりができたのかを考えさせる。 * 誤解がないように言いかえたり、声の調子、表情、身ぶりや態度を工夫したりして伝えることが大切であることに気づかせる。 * 話し合ったことをもとに、実際にペアで西川さんと田村さんになりきり、誤解なくやりとりができるか試させる。 3. 教科書P109 (1)～③の三つの状況下で、どのように「いいよ」と言えばよいか話し合う。 * 話し合ったことをもとに、実際にペアでやりとりをさせる。 * 話すときの声の調子、表情、身ぶりや態度が、相手に伝えるときに大切であることに気づかせる。 4. P109の「すみません」「やばい」の言い方について話し合う。 * 言い方だけでなく、誤解がないように別の言葉に言いかえることも大切であることに気づかせる。 * いろいろな言い方で実際にやりとりをさせる。 5. 「いいよ」「すみません」「やばい」の他に気をつける言葉を探す。 * 実際にやりとりをし、どのような言い方や言いかえが適切か考えさせる。 6. 本田さんと竹中さんのSNS上でのやりとりについて話し合う。 * どのようにすれば誤解なくやりとりができたのかを考えさせ、どんな言葉をどのように使うとよいのかを考えて伝えることが大切であることに気づかせる。 7. P111を読み、SNS上で絵文字・顔文字を利用するよさや注意点を知る。 * 実際にタブレット端末を利用してやりとりを行わせ、絵文字・顔文字を利用するよさや難しさを体感させてもよい。 8. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) 【言語活動例】 ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・すすんで、言葉には伝え方次第で相手に自分の考えがうまく伝わらないことに気づき、学習の見通しをもって、自分の考えを適切に伝えようとしている。
2学期	9月	1	漢字の広場③ 熟語の使い分け 教科書:P112 △意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分ける。 ☆学習用語: 熟語	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「大事」と「重要」の使い方の違いを考え、それぞれの文には、どちらがふさわしいかを話し合う。 3. 「制限」と「限定」などの使い方の違いを考え、二つの熟語の使い分けを考えたり、国語辞典などを利用してそれぞれの意味と用例を調べたりして、確かめる。 * 辞典を利用し、比較する二語の意味の共通点と相違点を調べ、用例が重なる場合と、使い分けされる場合があることを理解できるようにする。 4. よく似た意味の熟語を使って短文を作り、それぞれの違いを比べる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) 【態度】 ・積極的に語句と語句との関係について理解し、学習の見通しをもって、よく似た意味の熟語の使い方の違いを理解し、使い分けようとしている。

2学期	9月	1 (書く1)	五年生で学んだ漢字③ 教科書:P115 △絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。	漢字	2	5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 *教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を学級全体に示しやすくなる。 *描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 6. 五年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 7. 書いた文を見直し、適切な表現にかえたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 8. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
2	10月	1 (話す聞く1)	ひろがる言葉 つながる ひろがる 教科書:P116 ◇上巻の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、計画的に学習できるようにする。	話聞	1	1. 半年間の国語の学習を振り返り、自分が学んできたことを『六年生で学ぶこと』を見ながら、書き出したり話し合ったりする。 *上巻の教科書、ノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返らせる。 *『六年生で学ぶこと』を参照する。楽しかったことを中心に思い出させたい。 *心に残っている単元や教材、学習活動、また、心に残っている言葉などを具体的に書き、発表させる。 *友達の発表を聞き、学んできたことを共有できるようにさせる。 2. 発表し合ったことが、他の教科や生活の中で、どんなことに生かしているか考える。 *国語の学習が日常生活のさまざまな場面で生かされることに気づけるようにする。 3. 下巻ではどんなことを学習するのか、想像したことや期待することなどを自由に発表し合う。	【知識・技能】 ○話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話たり、それらを聞いたりする活動。(A(2)ア) ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・積極的に上巻の教科書での国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。
2学期	9月	8 (書く2)	ー ファンタジーを読み、自分の考えをまとめよう きつねの窓 教科書:P8 □登場人物の心情の変化を考えながら読み、想像したことを書く。 ★ここが大事:ファンタジーを読む	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 *ファンタジーについての知識やイメージを引き出し、作品世界に入りやすくさせる。 (1)単元扉を確かめ、本文を読む。 (2)心に残ったところを友達と交流する。 (3)主な登場人物と場面を確認する。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に對する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで人物像や物語などの全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって「窓」で見たいものを想像して書こうとしている。
			2・3		〈たしかめよう〉 2. 子ぎつねに対する「ぼく」の心情の変化をまとめる。 *「ぼく」の気持ちがわかる表現に傍線を引き、そのあと心情をまとめるとわかりやすい。		
			4・5		〈くわしくよう〉 3. 「窓」に映ったものと、不思議な世界に行ったあとの「ぼく」の変化について考え、話し合う。 (1)「窓」にはどのようなものが映るのか、子ぎつねの「窓」に映ったものと、「ぼく」の「窓」に映ったものを比べて考える。 *P26下段の図のように、両者に共通している事柄を抽出することによって、「窓」の意味やはたらきがはっきりしてくる。 (2)不思議な世界に行ったことによって、「ぼく」にはどのような変化があったのかを考え、話し合う。 *「ファンタジー」の特徴の一つである「不思議な世界に入り、また戻って来る」構成の物語である。一般に、戻って来た登場人物には変化(成長)がみられることが多い。この物語の場合はどうか。そこが話し合いの中心になる。 *「変わった」とすれば、どのように変わったのか考えさせる。学級で一つにまとめる必要はなく、意見・考えを交流すること、話し合いの主眼を置く。「なぜならば……」と、根拠をはっきりさせて発言させる。 *「ここが大事」にあるように、不思議な世界が、「ぼく」にとってどのような意味をもっているのかを考えることも必要である。		
			6		〈まとめよう〉 4. 自分が「窓」で見たいものを考え、その理由も明らかにして、工夫して紹介する。 (1)自分は「窓」でどのようなものが見たいか、理由も明らかにして、想像したことを書く。 *「きつねの窓」における「窓」はどのようなものなのかを確認し、見たいものを理由とともに想像できるようにする。 (2)表現の仕方を工夫して紹介し合う。 *新聞やポスター、ポップなど、表現方法を選べるようにする。		
			7		〈つたえあおう〉 5. 作ったものを見せ合い、感想を伝え合う。 *「なるほどと思ったところ」「いいなと思うところ」など、よいところを中心に感想を伝え合うようにする。		
				8	〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。 *P28の「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。		

2学期	10月	4 (書く1)	言葉の文化④ 言葉は時代とともに 教科書:P30 △言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを知り、自分の考えをまとめる。 ☆学習用語:言葉づかい／歴史的仮名遣い	文化	1・2	1.『言葉は時代とともに』を読み、言葉の変化について考える。 *「言葉は時代とともに」変化しているという、教材の概略を捉えさせる。 2.『万葉集』や近代の代表的な文学者の作品にふれて、その言語表現を味わう。 *『万葉集』や正岡子規、夏目漱石、芥川龍之介の作品を音読して、それぞれの文章の違いに気づかせる。	【知識・技能】 ◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(3)イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)カ)
					3	3.身のまわりの事物から、言葉の変化を考える。 *言葉の変化は、発音や文章の文体、文法など、さまざまな観点から考える必要があるが、ここでは語彙の変化を中心に扱う。 (1)身のまわりの事物や語彙の変化を調べる。 *書物からだけではなく、お年寄りにきいてみることも大事な取材活動になる。 (2)調べた言葉をグループで共有する。	【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア)
					4	4.時代とともに変化していく言葉について調べてみて、考えたことを交流する。 *「言葉の変化」について、自分の取材をもとに意見を書かせ、友達と交流させる。	【態度】 ・積極的に言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを理解し、学習課題にそって自分の考えをまとめようとしている。
2学期	10月	6 (書く6)	二 説得力のある文章を書こう 十二歳の主張 教科書:P38 ■理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書く。 ★ここが大事:説得力をもたせて書く／推敲する ☆学習用語:課題提起／結論／序論／本論／投書	書く	1	〈見通しをもとう〉 1. 学習活動の見通しをもつ。 (1)「私たちとインターネット」を読み、どのように意見文を書くのかイメージし、学習活動の見通しをもつ。 *小学生が書いた投書を読み、意見文や投書がどのようなものなのかつかませてもよい。 〈決めよう・集めよう〉 2. 課題を決める。 (1)身のまわりで課題になっていることを、グループで出し合う。 (2)意見文に書きたい課題を決める。 *日頃感じている問題や改善したいこと、困っていることを話し合わせ、意見文に書くテーマを考えさせる。そのために日頃から新聞記事を集めたり、朝のスピーチを行ったりすることが有効である。	【知識・技能】 ◎文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) ◎「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア)
					2	3. 課題に関することを取材して、情報を集める。 (1)課題について主張したいことを考える。 (2)取材するときの観点を確かめる。 (3)主張を説得力のあるものにするために、情報を集める。 *自分が経験したことだけを書くのではなく、引用することを前提として資料を探させる。そうやって取材することで根拠が明確になり、より説得力のある意見文になることを確認する。 *引用の際は、正確に引用できるように、出典を明記させる。	【態度】 ・積極的に引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習課題にそって理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書こうとしている。
					3	〈組み立てよう〉 4. 集めた材料から主張の理由・事例として適切なものを選び、伝えたいことが明確になるように構成を考える。 (1)意見文の構成の仕方や構成表の作り方を知る。 *P40の「構成表」をもとに、序論・本論・結論の構成を理解させる。 (2)構成表を作る。 (3)構成表を友達と読み合い、伝えたいことが伝わる構成になっているかアドバイスし合い、構成表を完成させる。	
					4・5	〈書こう〉 5. 構成表をもとに、意見文を書く。 *一方的に自分の意見を言うのではなく、反対意見を予想して書いたり、その反対意見に反論したりすることを大切にさせる。 *反対意見とその反論を書くときには、「確かに～。しかし……」という書き方があることを確認する。 〈読み返そう〉 6. 意見文を読み返す。 *P42の推敲の観点を参考にさせる。 *友達どうしによる協同推敲を取り入れるとよい。	
					6	〈伝え合おう〉 7. 友達と読み合って、交流する。 *読んでもらって、書いてよかったと思わせることが大切である。 *書き手の目的や意図に応じた内容になっているかを考えながら、よいところについて感想を述べ合わせる。 〈ふり返ろう〉 8. 学習を振り返る。 *書いた意見文を、新聞に投稿させてもよい。学校外や社会に向けて自分の意見を発信させることの意義に気づけるよい機会となるだろう。	
2学期	11月	1	漢字の広場④ 音を表す部分 教科書:P44 △形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解する。 ☆学習用語:漢字／共通点／様子／熟語／発表／形声文字	漢字	1	1. P44上段の文例を読み「清」「晴」「精」の共通点について考える。 *どれも意味を表す部分と、音を表す部分とを組み合わせた漢字(形声文字)であることを確認する。 2. P45上段1に取り組む。 *音を表す部分が同じ形でも、音が違うものもあることをおさえる。 3. P45上段2に取り組む。 4. P45下段3に取り組む。 5. P45下段4に取り組む。 *熟語の意味をもとに、適切な漢字を選ぶようにする。 6. P45下段5に取り組む。 *漢字辞典や国語辞典の活用が効果的である。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ) 【態度】 ・積極的に漢字の由来、特質などについて理解し、学習の見通しをもって形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解しようとしている。

2学期	11月	1 (書く1)	五年生で学んだ漢字④ 教科書:P46 △絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。	漢字	2	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 * 絵の中にある五年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 8. 五年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 場面を指定したり、テーマを示したり、条件をつけて書かせるとよい。 9. 書いた文を見直し、適切な表現に書きかえたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 * 互いの文のよいところを見つけて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。 10. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
2学期	11月	1	三 自分の経験と重ねて読み、考えを広げよう あなたは <u>どう</u> 感じる？ 教科書:P48 □友達と自分の感じ方の違いについて考える。	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元名やいざないの言葉を読んで、学習の見通しをもつ。 * 二つの教材から、自分の経験と重ねて「心の世界」について考えを書き、友達と読み合うことで考えを広げるという学習展開を確認する。 2. 『あなたは <u>どう</u> 感じる？』を読んで、友達と自分の感じ方はなぜ違うのか、考えを伝え合う。 * 立場が同じでも理由が違う場合もある。理由の違いによる感じ方の違いに気づかせたい。 * 「好きでも嫌いでもない」という児童の感じ方も認め、相互理解の姿勢を大切にできるとよい。	【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで友達と自分の感じ方の違いについて考えようとし、『ぼくの世界、君の世界』の学習に生かそうとしている。
2学期	11月	7 (書く1)	三 自分の経験と重ねて読み、考えを広げよう <u>ぼくの世界、君の世界</u> 教科書:P50 □筆者の考えに気をつけながら、文章の要旨を捉え、「心の世界」について考える。 ★ここが大事:筆者の論じ方 ☆学習用語:要旨	読む	2・3	〈たしかめよう〉 3. 『 <u>ぼくの世界、君の世界</u> 』を通読し、「心の世界」を捉えるための事例と要旨について考える。 (1)「昔から大真面目に議論されてきた問題」を解き明かすための二つの事例について、表を用いてまとめる。 * 第⑦～⑫段落が「小さな問い」「具体例や筆者の考え」「意見(小さな問いの結論)」という構成になっていることをおさえる。	【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)
					4	(2)『 <u>あなたは<u>どう</u>感じる？</u> 』での学びや(1)の表をもとに、この文章の要旨について話し合う。 * 要旨をまとめる際には、文中の言葉をそのまま生かしたり、自分の言葉を用いたりして短くまとめるとういことを確認する。	【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたことを書く活動。(B(2)ア)
					5・6	〈くわしくよう〉 4. 既習の説明文と比較して、筆者の論の進め方にはどのような特徴があるのか、事例や解説、絵や図表、文末表現などに着目して話し合う。 * 筆者の論の進め方を考えるにあたり、これまでに学んだ説明文と比較するというだてを示す。説明文の例として、『雪は新しいエネルギー』を取り上げ、教科書の三つの視点から特徴を考えることを伝える。 * 全体の特徴として、『雪は新しいエネルギー』では複数の視点から検討することで考えを深めているが、『 <u>ぼくの世界、君の世界</u> 』では小さな問いを積み重ねながら思索を深めている点にも着目したい。	・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C(2)ア)
					7	〈まとめよう〉 5. 二つの教材をもとに、自分の身近な経験と比べながら「心の世界」について考えたことを書く。 * 書く前段階として、筆者の考えに共感できる点、共感できない点を明らかにしたり、自分の経験と比べた意見やその理由を箇条書きでまとめたり、意見と理由のつながりについてペアで確認したりしてもよい。	【態度】 ・学習の見通しをもって、筆者の考えに気をつけながら文章の要旨を捉えるとともに、自分の経験を振り返りながら「心の世界」について考えようとしている。
					8	〈つたえあおう〉 6. 書いた文章を友達と読み合い、共通点や相違点はどこか、話し合う。 * 読み合う際には、自分の考えと比べて似ているところと違うところをメモに書いたり、友達の意見から新しく発見したことや共感・納得したことをまとめたりしておくとうい。 〈ふり返ろう〉 7. 学習を振り返る。 * P59「ふり返ろう」の視点を中心に、これまでにまとめた表や要旨、自分の考えを書いた文章などを見直しながら振り返るよう伝える。	

2学期	11月	4 (話す聞く3・書く1)	三 自分の経験と重ねて読み、考えを広げよう 「うれしさ」って何？——哲学対話をしよう 教科書:P62 ◇お互いの考えや意見を関連づけて述べ合い、共通点や相違点をもとに分類する。 ★ここが大事: 伝え合う努力をするために	話聞	1・2	〈見通しをもとう〉 1. 「うれしさ」について考え、互いの感じ方を伝え合うという学習の見通しをもつ。 〈決めよう・集めよう〉 2. 「うれしさ」について考える。 * 「うれしかったこと」や「うれしいと感じたとき」など具体的な体験を思い出す。 〈組み立てよう〉 3. 「うれしさ」を感じた体験をカードに書く。 * 「なぜうれしいと感じたのか」「どんなうれしさだったのか」追記する。	【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) ○「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)
					3	〈話そう・聞こう〉 4. 「うれしさ」について伝え合う。 5. 「うれしさ」について質問し合う。 * 質問したり感想を伝えたりすることをとおして、話し手の「うれしさ」の感じを確かめながら聞く。 * 「うれしさ」の感じ方の共通点や相違点に留意して聞くように助言する。 6. 「うれしさ」进行分类する。 * グループで共通点や相違点を見だし、分類する。 7. 分類した「うれしさ」に名前をつける。 * 共通点が伝わるように簡潔な名前をつけるようにする。	
					4	〈伝え合おう〉 8. 発表し合い、感想を交流する。 (1)グループごとに「うれしさ」の種類を発表する。 (2)「うれしさ」の種類を学級全体でまとめ直す。 (3)話し合いをとおして気づいたことや、残った疑問などをまとめる。 〈ふり返ろう〉 9. 学習を振り返る。 * 振り返る観点(①自分が考える「うれしさ」について、②哲学対話の過程について、③帰納的な分類のよさについて)を設定する。	
2学期	12月	3 (話す聞く1)	読書の広場③ 「読書タイムライン」を作って交流しよう 教科書:P66 △読書タイムラインを作成することをとおして、今までの読書を振り返り、日常的に読書に親しむ。	読書	1	1. P66～69を読み、学習活動の見通しをもつ。 2. 自分の読書生活を振り返りながら、「読書タイムライン」を作る。 * 「読書タイムライン」を書く前に、これまで読んできた本を全体で振り返り、ノートに書く時間をとるとよい。個人読書だけでなく、学校生活で本を読んだ機会をできるだけあげるとよい。	【知識・技能】 ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。((3)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア) ・学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。(C(2)ウ) 【態度】 ・すすんで読書履歴などを振り返りながら読書について考え、学習の見通しをもって「読書タイムライン」を作り、今後の読書生活に生かそうとしている。
					2	3. 前時に引き続き、「読書タイムライン」を作る。 4. 「読書タイムライン」の記述をもとに、テーマを決めて三冊を選ぶ。 5. 選んだ三冊にどんなつながりがあるのか、簡単に説明をする練習をする。 * 三冊という数字は、自分の読書生活をつながりのあるストーリーとして把握するための最低限の冊数として出している。読書好きな児童は、もっと多い冊数を選んでもよい。	
					3	6. お互いの「読書タイムライン」や、それをもとに選んだ三冊について紹介しあう。 7. 紹介のあとで、自己の読書生活について振り返る。 * 交流の仕方は、児童の実態に応じて選択したい。 * 交流に際しては、発表の仕方について批評的にコメントするのではなく、相手の読書生活に耳を傾け、それを好意的に受け止め、興味をもった箇所について質問することを大切にしたい。	
2学期	12月	2	言葉の広場④ その場にふさわしい言い方 教科書:P70 △話す相手や場面に応じて、敬意を表す言い方を適切に使い分ける。 ☆学習用語: 敬意／謙譲語／尊敬語／敬語	言語	1	1. 冒頭の会話文をとおして、敬意を表す際にさまざまな言い方があることに気づく。 * 実際の場面を想定し、自分ならどのように言うかを考えさせながら学習を進める。 * 敬語を使っても、敬意を表す言い方として必ずしも適切な言い方にならないことに気づかせる。 * 自分の考えを発表させ、文末の形式によって丁寧さや受ける印象が違ってくることに気づかせる。 2. 設問1を読み、受付で名前を記入するようにお願いする場合の言い方について考える。 * ここまでの学習を踏まえて、さまざまな言い方をあげさせつつ、どの言い方がふさわしいか考えさせる。 3. P71を読んで、押しつけがましさを感じさせない言い方について考える。 * 補助動詞「あげる」「さしあげる」を用いると、自分の手間を殊更に印象づけた、押しつけがましい言い方になることを理解させる。 * 押しつけがましさを感じさせない、適切な言い方を考えさせる。	【知識・技能】 ◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。((1)キ) 【態度】 ・積極的に敬語などの相手を敬ったり、思いやりたりする表現を理解し、学習課題にそって場面や相手に応じたふさわしい言い方をしようとしている。
					2	4. P72を読み、公的な場面での言い方について考える。 * 和語と漢語はどのような言葉で、どのような特徴があるか、先に確認しておく。 * 和語を漢語に変えると改まった語感になることを理解させる。 5. P73を読み、身内のことを他人に伝える場合の言い方について考える。 * 身内のことを他人に伝える場合は尊敬語を使わないことを理解させる。 * 設問については、正しい敬語に直すだけでなく、改まった言い方に直し、文全体が敬意を表す言い方として統一されるように心がけさせる。 6. 学習したことを振り返る。 * 場面や相手に応じた言い方を考えられたか振り返る。	

2学期	12月	1	詩を読もう 紙風船 教科書:P74 □詩を朗読して表現の効果について考え、人物像を具体的に想像する。 ☆学習用語:繰り返し(反復)／比喻／倒置法	読む	1	1. 範読を聞いたあとに、さまざまな方法で詩を読む。 * 紙風船の実物を用意したい。教師が実際に紙風船を膨らませて空中に打ち上げてみせるとよい。 2. 表現上の特徴について、ペアで話し合う。 3. 詩『紙風船』が、どんなイメージを読み手に呼び起こすかについて、グループで話し合って、交流をする。 * タブレット端末やホワイトボードを使って、互いの気づきやイメージした言葉を、記録しておくといよい。 4. グループの話し合いで出てきた意見やイメージを、教室全体で発表し、交流する。 5. 「高く打ち上げたいもの」を考えて、全員で一斉音読をする。	【知識・技能】 ◎ 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク ◎ 文章を音読したり朗読したりしている。(1)ケ 【思考・判断・表現】 ◎ 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ 【言語活動例】 ・ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ 【態度】 ・ すすんで言葉から想像を膨らませ、今までの学習を生かして詩の世界を味わおうとしている。
2学期	12月	3	四 筆者の書き方の工夫を見つけよう 「迷う」 教科書:P76 □筆者のものの見方や感じ方などにふれるとともに、随筆の文章の特徴を捉える。 ★ここが大事:文章の特徴をとらえて表現に生かす ☆学習用語:随筆	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元名やいざないの言葉を読んで、学習の見通しをもつ。 * P83「たしかめよう」で、これから行う学習活動も一緒に確認する。 〈たしかめよう〉 2. 「迷う」ことに関連した六つの事例の中から、自分がおもしろいと思った事例を選び、どんなところがおもしろいのか話し合う。	【知識・技能】 ◎ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ 【思考・判断・表現】 ◎ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C1)オ ◎ 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)カ 【言語活動例】 ・ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ 【態度】 ・ 積極的に文章の特徴について理解するとともに、筆者のものの見方や感じ方などにふれ、今までの学習を生かして、筆者の書き方の工夫を見つけようとしている。
					2	〈くわしくよう〉 3. 「迷う」ことに関連した事例のうち、書き方のおもしろさに着目し、どのような書き方の工夫や文章の特徴があるのか伝え合う。 * P85「ここが大事」を活用する。 〈まとめよう〉 4. 見つけた書き方の工夫に「わざ」の名前をつけ、その説明を表などにまとめる。 * P84下段を参考に進める。	
					3	〈つたえあおう〉 5. 考えた「わざ」について伝え合う。 〈ふり返ろう〉 6. 書き手の工夫を見つける際に気をつけたことや、今後使ってみたい工夫について振り返る。 * 見つけた書き手の「わざ」をまとめて、教室に掲示して残しておくことも有効である。	
2学期	12月	5 (書く5)	五 伝えたいことを明確にして書こう 六年間の思い出をつづろうー卒業文集 教科書:P86 ■事実や経験をもとに、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について考えたことを文章に書く。 ★ここが大事:思い出を卒業文集に書く	書く	1	〈見通しをもとう〉 1. 卒業文集に向けた文章を書くことを知り、学習の見通しをもつ。 * 卒業文集が、六年間の小学校生活を振り返るとともに、「今の自分」を書き残す活動であることを確認する。 * 教材文を読み、これから書く文章の特徴を確かめる。 〈決めよう・集めよう〉 2. 書く事柄を決める。 (1)心に残っていることを思い出す。 * P86の表を参考にして、心に残っていることを思い出す。 * 表やマッピング(ウェブング)などで、児童が書く事柄を想起しやすいように支援をする。 (2)友達と話し合う。 * 思い出をより具体的に思い出すためという目的を明確にする。	【知識・技能】 ◎ 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク 【思考・判断・表現】 ◎ 「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア 【言語活動例】 ・ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B2)ウ 【態度】 ・ すすんで自分のこれまでの小学校生活を振り返り、心に残っている事柄と自分にとっての意味を考えながら、学習課題にそって、読み手に伝わる文章を書こうとしている。
					2	〈組み立てよう〉 3. 文章の構成を考える。 * 教材文がどのような構成になっているかを確かめる。	
					3	〈書こう〉 4. 文章を書く。 * P88「表現の工夫」を読み、さまざまな文章表現を意識させる。 * 随筆の学習を振り返らせ、表現を工夫するよう助言する。	
					4	〈読み返そう〉 5. 推敲する。 * 表現や修飾が過剰になっている場合など、適宜指導をしていく。 * 友達とお互いの下書きを読み合う協同推敲を行うのもよい。	
					5	〈伝え合おう〉 6. 友達と文章を読み合い、感想を交流する。 * 文章に書かれていることについて、共感的かつ肯定的な感想の交流となるようにする。 〈ふり返ろう〉 7. P89の内容について振り返りをする。	

3学期	1月	2 (話す聞く 1・書く1)	言葉と私たち 教科書:P90 ◇■言葉に対する自分の考えを書き、言葉への関心をもつ。 ☆学習用語:教訓／尊敬語／謙譲語	話・書	1	1. 自分たちにとって言葉とは何か考えてみる。 * 問いが抽象的になってしまうと答えにくいので、どんなときに言葉を使っているのかといった具体的な問いかけをするとよい。 * 「言葉とは」に続く形で、考えを書き出してもよい。 2. 教科書の三人のメッセージを読み、それぞれについての感想を交流する。 * 三人の筆者についての情報を提供して感想を求めてもよい。 * 文章全体の感想だけでなく、印象的な語句(表現)をおさえることもできる。 * 自由な感想交流としたいが、言葉がテーマであることは常におさえておく。	【知識・技能】 ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(1)ア ◎話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。(1)イ 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A1)イ ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ウ)
					2	3. 言葉に対しての自分の思いを書く。 * P90上段の三つの問いかけを参考にするとよい。この問いに対しての応答でもよいし、言葉についての自由な考えでもよい。 4. 書いたものをグループや学級で交流して、言葉についての興味や関心を深める。 * グループによる話し合いで共通点を見いださせてもよい。 * なんらかの答えを出すというのではなく、言葉に対しての興味や関心をもたせるようにする。 5. 学習を振り返る。 * これからさらに言葉を学んでいく意義を再確認させる。	【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。(A2)ア ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア) 【態度】 ・すすんで言葉に対する自分の考えをもち、今までの学習を生かして友達と交流したり書いたりすることをとおして、言葉への関心を広げようとしている。
3学期	1月	1	漢字の広場⑤ 同じ訓をもつ漢字 教科書:P92 △異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分ける。	漢字	1	1. P92上段の文例を読み「あける」の意味や使い方について考える。 * 助詞の違いにも着目させる。 2. P92下段1に取り組む。 * 文脈から判断したり、知っている熟語に置きかえたりして考えるなどの習慣を身につけさせる。 * 類義の語に置きかえて考えさせてもよい。 3. P93上段2に取り組む。 * 「(会社など)に勤める」「(役目など)を務める」と、助詞が異なることに着目できるとよい。 4. P93下段3に取り組む。 * 同訓の漢字の使い分けを調べるには、国語辞典が便利だということに気づかせる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) 【態度】 ・積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、学習の見通しをもって異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分けようとしている。
3学期	1月	1 (書く1)	五年生で学んだ漢字⑤ 教科書:P94 △絵を見て想像したことをもとに、五年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。	漢字	2	5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 * 絵の中にある五年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 6. 五年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 書き表し方を工夫するようはたらきかける。 * 条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 7. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 8. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ) 【言語活動例】 ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
3学期	2月	11 (書く3)	六 伝記を読んで、生き方について自分の考えをまとめよう 津田梅子——未来をきりひらく「人」への思い 教科書:P96 □伝記を読んで、登場人物の生き方をもとに、自分の未来について考える。 ★ここが大事:伝記を読む ☆学習用語:人物像／伝記／関係図	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 (1)単元扉を読む。 * これまで読んだ伝記について発表したり、津田梅子について知っていることを交流したりさせてもよい。 (2)範読を聞き、初発の感想をもって、交流する。 * 自分との共通点や相違点を意識しながら、感想を交流させる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)カ) 【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ)
					2～4	〈たしかめよう〉 2. 津田梅子の人生を年表に整理する。 (1)梅子の行動や主なできごとなどがわかるところに線を引く。 (2)年表に整理する。 (3)年表に整理して気づいたことを話し合う。	【態度】 ・学習課題にそって津田梅子の生き方を考えたあと、自分のこれまでに会った人やもの・こととのつながりを思い出し、積極的に自分の考えをまとめようとしている。
					5・6	〈くわしくよう〉 3. 津田梅子の人物像を捉える。 (1)津田梅子の性格やものの見方・考え方がわかる叙述を探す。 (2)見つけた叙述から、どのような人物なのかについて考え、話し合う。	
					7～9	〈まとめよう〉 4. 津田梅子の人生や人物像をもとに、「梅子関係図」や「私の未来」などの方法で、自分の考えをまとめる。 (「梅子関係図」の場合) (1)津田梅子が出会った人やもの・ことについて整理する。 (2)津田梅子の生き方について、自分の考えを書く。 (「私の未来」の場合) (1)自分の夢やこれから取り組みたいことなどについて、「私の未来」としてまとめる。 * 小学校生活を振り返り、自分がどのような人やもの・ことから影響を受けたかを踏まえさせる。	
					10	〈つたえあおう〉 5. まとめたものを読み合い、感想を伝え合う。	
					11	〈ふり返ろう〉 6. 「ここが大事」を確認し、「ふり返ろう」の観点にそって振り返りを行う。 (1)津田梅子の伝記から学んだことを振り返る。 (2)「私の未来」の作成や交流を通して、考えたことを振り返る。	

3学期	3月	2	言葉の広場⑤ 日本語の文字 教科書:P114 △日本語の文字の由来や特徴に関心を持ち、適切に使い分けができる。 ☆学習用語:会意文字／指事文字／象形文字／形声文字／訳／万葉仮名／仮名／外来語	言語	1 1. 日本語は、さまざまな文字を使って書き分けられていることを知り、学習活動に対する見通しをもつ。 * 教材文冒頭のイラストに付された説明書きから、日本語には多様な表記があることを知り、日本語の文字の由来・特質を学習することに対する意欲を高める。 2. 漢字の由来・特徴について理解する。 * 教材文を読み進めながら、漢字の由来や音訓の別、漢字の造語性などについて理解させる。 3. P116の資料を実際に読んで「万葉仮名」の特徴を理解する。 4. 平仮名と片仮名の由来・特徴について理解する。 2 5. ローマ字の由来・特質について理解する。 6. 日本語と外国語の文字の違いについて理解する。 7. 日常生活の中で、日本語の文字がどのように使われているかを話し合う。 * 設問2に取り組ませ、漢字・平仮名・片仮名・ローマ字がそれぞれどのようなことを表すのに用いられているのかについてグループで話し合わせ、全体で共有を図る。 8. 学習したことを振り返る。 * 日本語の文字の由来や特徴を理解することで、日本語にさらに興味をもち、積極的に意識して使用できるようにしていくことを示唆しておく。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。((3)ウ) 【態度】 ・積極的に日本語の文字の由来や特徴を理解し、今までの学習を生かして適切に使い分けようとしている。
3学期	3月	1	漢字の広場⑥ さまざまな読み方／特別な読み方の言葉 教科書:P120 △同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に関心をもつ。	漢字	1 1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「上手」を例に、意味によって読み方が変わる言葉(同形異語)について知り、それぞれの意味や感じ方の違いを比べる。 * 読み方の違いから、意味や感じ方が違ってくることに気づくようにし、その漢字が日常生活にどう根づいているのかについて興味・関心を高めるようにしたい。 3. 「特別な読み方の言葉」について知り、P122の一覧表を使って、どのような言葉があるのか確かめる。 * P122の一覧表をもとに、仲間の言葉をまとめたり、関連する言葉どうしを集めたりして、日常生活と結びつけて扱うようにするとよい。 4. 「降」「背」「夜」「尊」など、複数の訓がある漢字(同字異訓)の読み分け方について関心をもつ。 * 読み手の感覚で読み分けることもあるように、読み方の正解が一つでない場合があることに気づかせたい。 5. 「小学校で学んだ漢字」をもとに複数の訓がある漢字を探し、送り仮名に注意し、表現の効果などについて確かめたり工夫したりして文を書き、友達どうしで読み合う。 6. 設問1に取り組み、話し合う。 * 読み方が変わると意味が変わるのか、意味は似通っているが語感が異なるのか、具体的に考えさせるようにしたい。 7. 設問2をもとに訓の読み方を考え、音読する。 * 「通」「冷」「角」の複数の訓の読み分けを考えるようにする。 8. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に関心をもとうとしている。
3学期	3月	3 (話す聞く1・書く2)	ひろがる言葉 出会った言葉をふり返ろう 教科書:P123 ■卒業を前に六年間の言葉の学びを振り返り成長を自覚するとともに、中学校での新しい言葉との出会いの希望をもつ。	話・書	1 1. 六年間の言葉の学びを振り返りながら、「卒業式で自分におくりたい言葉」を選ぶ。 * 六年間の言葉の学びに関わるさまざまな思い出の品を持ち寄らせる。あるいは、それぞれの学年での代表的な単元や教材を教師が提示したり、思い出を自由に出し合わせたりする。 * 国語の授業に限定することなく、読書体験やその他の学校生活の中で出会った言葉を思い出させてもよい。 * 『「こんど、君と」の曲を聴くのもよい。「言葉」は単語とは限らないことを確認させる。 2. 自分で選んだ言葉をグループ内で交流する。 * 挿絵を参考にしながら自由に思い出を語り合わせる。理由やエピソードを必ずつけ加えて話すようにさせる。 * 互いに言葉を紹介する中で、選んだ言葉を変えてもよい。 * 友達の話を聞くときは簡単なメモを取らせる。 2・3 3. 選んだ言葉を工夫して表現する。 * どのような表現方法があるのか教科書を参考にして確認させる。教科書の例示以外の方法があってもよい。 4. さまざまな表現方法で選んだ言葉を交流し、みんなの思いを共有する。 * できるだけ自由に、個々の創意工夫を生かして楽しく交流させる。 * 卒業を意識させるとともに、中学校での学びについてふれるようにする。	【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)カ) 【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。(A(2)ア) 【態度】 ・積極的に卒業を前に六年間の言葉の学びを振り返り、成長を自覚するとともに、中学校での新しい言葉との出会いの希望をもとうとしている。